



### 当院は来年3月を以て **小児科を閉科** することと致しました。

院長 島津 敬

当院の小児科をご利用いただいていた先生方や病棟スタッフ、何より当院小児科をご利用いただいていた近隣の患者様方にはご迷惑をお掛けして誠に申し訳なく思っています。

なぜやめなければならなくなったかを以下に述べさせていただきます。

平成13年に当院は中央区から垂水区に移転しましたが、その際に垂水区医師会と小児科、循環器内科、脳神経外科の救急医療を提供するという協定を交わしておりました。尚、中央区で開院していた際には小児科はありませんでしたが、垂水区の開院時には小児科を開くことが出来ました。その後医師が一人になったり、二次救急の輪番を担当できなかつたりと紆余曲折はありましたが、15年間余り小児科を維持してまいりました。ご存知のように小児科医療は収支的には黒字になることはありませんが、当地への移転の経緯もあり、他科の収益で補填して経営を持続してきたのが実情です。大きな問題がなければこの状態で小児科を維持していく方針でしたが、医療介護をめぐる状況がひっ迫し、病院の存続を真剣に考えなければならない状態となって参りました。2025年に向けて地域医療構想の検討が進み、急性期病院の病床は過剰で、療養型の病床への転換を進める方向に話が進んでいます。診療報酬の締め付けも進み、なかなか収益を上げることが困難となってきています。

急性期型を維持するためには他の病院との競合に打ち勝て、という政府の方針ですので病院の骨組みを変更する必要にさらされています。

以上、諸般の事情により閉鎖を余儀なくされましたことを深くお詫び致しますとともに、これまでご支援を賜り心より感謝申し上げます。

先生方にはご迷惑とご不便をおかけすることとなりますが、ご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。





2017年4月より神戸掖済会病院にて形成外科・血管外科を担当しております清水和輝と申します。血管外科に関しては、前任者同様に引き続き腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤、内シャント造設、急性動脈閉塞、その他血管病変の治療に当たっております。

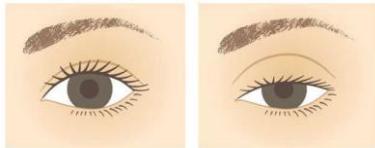
形成外科に関しては2017年4月より新たに開設致しました。治療疾患としては、熱傷、顔面骨骨折、切断指をはじめとする手指・足の外傷、その他体表面の外傷、良性・悪性腫瘍およびそれに伴う再建、難治性の褥瘡・潰瘍、瘢痕(拘縮)・ケロイド、眼瞼下垂など多岐に渡ります。

また大鶴副院長をはじめとする当院外科にて長らく乳癌切除が行われてきましたが、形成外科が開設されたことにより当院にて乳房再建も可能となりました。特にエキスパンダー/インプラントを用いた乳房再建(写真1)は2013年7月よりごく最近に保険診療となりましたが、当院も2017年9月より日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会より実施施設として認定されました。乳房切除を行った同じ病院で再建を行うことは医療者側、患者側の双方に安心・安全の一助になると考えております。

**乳房再建例および  
エキスパンダー/インプラント**



**形成外科  
血管外科**



正常

眼瞼下垂症

次いで今回は眼瞼下垂についてお話ししたいと思います。高齢者が増えるにつれ眼瞼下垂患者も増えてきています。病状が進めば物が見えにくくなるのはもちろんのこと、頭痛・肩こりの原因ともなり不快さを伴うこととなります。患者数の多い疾患であり、余剰皮膚を切除するだけでもある程度なんとなくの効果はみられますので、日帰り手術で



**写真2 眼瞼下垂の手術例**



様々な方法で多くの病院、クリニックにて治療が行われています。しかしながら、上眼瞼は厚さ3~4mmの中に、8層構造で構成された繊細な膜状構造物が互いに滑り合って可動し重瞼を作り出しているデリケートな部位です。従って上眼瞼の機能解剖を理解し、実際にそれらの剥離・同定が行えることがしっかりした手術結果につながります。当科では上眼瞼の機能解剖に基づいたミューラー筋をタックリングし“目力(めぢから)”をアップさせる手術方法を行っています(写真2)。眼瞼下垂の手術方法の中では難易度の高い部類に入りますが、切断指再接合(写真3)や遊離皮弁による再建など長らくマイクロサージャリーに従事してきたことが、確実に膜状構造を剥離・同定する過程に非常に役立っております。また上眼瞼は薄い部位ではありますが非常に血行が豊富ですのでいわずもがな術後出血には十分に注意しなければなりません。この点から日帰り手術ではなく入院手術が望ましいと考えております。

写真3 切断指再接合例



当院はもちろん入院治療が可能ですので、医療者側、患者側双方にとって安心して眼瞼下垂の手術治療をすすめることが出来る環境を提供できます。

甚だ簡単ではありますが今回はこれにて当科の紹介を終えたいと思います。血管外科・形成外科に関する患者がいらっしゃれば紹介の程宜しくお願い致します。

形成外科・血管外科  
医長 清水 和輝

本年中は、ご厚情賜りありがとうございました。

当、神戸掖済会病院 地域医療連携室は 12月29日～1月3日までお休みとなっております。

また、28日（金）の業務は19時迄となっておりますので、ご予約に関するお問い合わせなどは1月4日以降にお願いいたします。

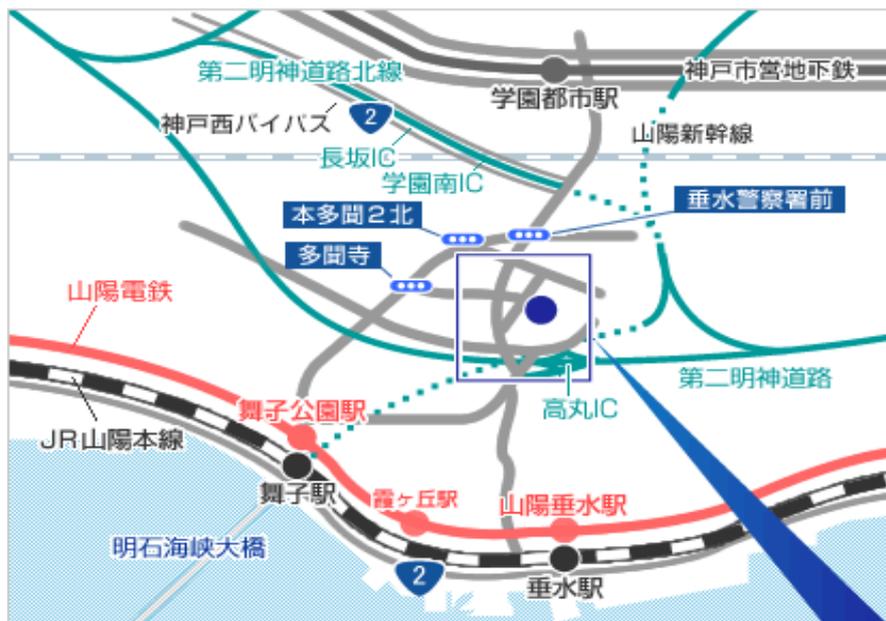
尚、12月29日～1月3日の間、ご紹介患者様につきましては、救急診療対応させていただきますのでお電話にてお問い合わせ下さい。

休診中にご不便、ご迷惑をお掛け致しますが宜しくお願い申し上げます。

来年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

地域医療連携室一同





周辺図 ▶



【地下鉄学園都市駅から】山陽バス・神戸市バス 約12分

【地下鉄名谷から】山陽バス 約20分

【JR垂水駅から】山陽バス・神戸市バス 約20分



〒655-0004  
 神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号  
 TEL：078-781-7811（代表）  
 FAX：078-781-1511  
<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>